

TRAVENTY[®] 4 AdminPack

マニュアル

ソフトウェア使用許諾

- 1 本ソフトウェアは、イーディーコントライブ株式会社の著作物です。したがって、本ソフトウェア及び本書の全部または一部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2 本ソフトウェア及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 3 本ソフトウェアの使用または使用できないことにより生じる損害、費用、派生的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、または利益の損失につき、いかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 4 本ソフトウェアの著作権等の知的財産は、いかなる場合においてもお客様に移転されません。
- 5 本ソフトウェアのソースコードについては、いかなる場合においてもお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解析するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングをすることを禁止します。
- 6 書面による事前の承諾を得ずに本ソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
- 7 本製品に関し、日本国内でのみテクニカルサポート及びアフターサービス等を行っております。
- 8 本ソフトウェアは、「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸送既製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 9 本ソフトウェアは医療機器や人命に直接間接的に関わるシステム、高い安全性が要求される設備や機器に組み込んでの使用は意図されておりません。これらのシステムや設備等に本ソフトウェアを使用され、本ソフトウェアの動作により人身事故、火災事故、社会的損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。また、高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステム等の安全設計や故障に対する適切な処置を万全に行ってください。
- 10 本ソフトウェアは、ツール毎に一時に一台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
- 11 本ソフトウェアまたはその使用权を第三者に再使用許諾、譲渡、移転等の処分を行うことを禁止します。
- 12 本ソフトウェアに起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本ソフトウェアの購入代金と同額を上限と致します。
- 13 当社は、お客様が上記のいずれかに違反された場合は、いつでも本ソフトウェアの使用を終了させることができるものとします。
- 14 ED-CONTRIVE、Traventy、Traventy ロゴは、イーディーコントライブ株式会社の商標または登録商標です。
- 15 本書に記載されている他社名、他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

目次

ソフトウェア使用許諾	1
はじめに	3
Traventy 4 AdminPack でできること	3
動作環境.....	6
インストール / アンインストール.....	7
ポリシー設定ツールの操作	8
ポリシー設定ツールの起動	8
パスワード設定	9
ウイルス対策.....	12
資産管理.....	13
ポリシー配信.....	16
制限設定.....	17
本体設定.....	23
出力設定.....	26
初期化ツールの使用	29
動作制限解除ツールの使用	30
インストールする	30
アンインストールする	31
コピーガードドライバの使用	32
インストールする	32
アンインストールする	34
ロック解除・パスワード強制再設定	36
ロック解除・パスワード強制再設定手順	37
使用可能期間の延長	38
使用可能期間延長手順.....	39
ポリシー配信ツールの操作	40
ポリシー配信ツールの起動	40
ポリシー配信の仕組み	41
更新履歴.....	43
配信設定.....	43
現在の設定	44
配信ツール設定	44
ユーザ登録・サポート	45

はじめに

Traventy 4 AdminPack でできること

Traventy 4 AdminPack は、お客様のセキュリティポリシーに基づいて、セキュリティ USB メモリ「Traventy 4」に対してパスワードポリシー、資産管理、動作制限等のポリシー設定や機能追加を実現するための、システム管理者用ソフトウェアです。

Traventy 4 AdminPack は以下のツールで構成されています。

- ・ ポリシー設定ツール
- ・ レスキューツール
- ・ ポリシー配信ツール

各ツールはそれぞれ独立してインストール・利用が可能ですので、ツール毎に使用者(インストール先 PC)を変更して、お客様の運用に合わせてご利用いただけます。

Traventy 4 AdminPack の各ツール

ポリシー設定ツール



Traventy 4 のポリシーを設定し、Traventy 4 へ反映させるための初期化ツールを生成するソフトウェアです。また設定されたポリシーによって、動作制限解除ツールを同時に生成します。

ポリシー設定ツールの使用方法は「**ポリシー設定ツールの操作** (P.8)」を参照してください。

レスキューツール



パスワード忘れ、ロック時の救済機能設定が有効な Traventy 4 に対して、パスワードの強制再設定、及びロック解除を行うために使用するソフトウェアです。

また使用可能期間が設定されている Traventy 4 に対して、使用可能期間の延長を行う場合も本ソフトウェアを使用します。

レスキューツールの使用方法は「**ロック解除・パスワード強制再設定** (P.36)」「**使用可能期間の延長** (P.38)」を参照してください。

ポリシー配信ツール



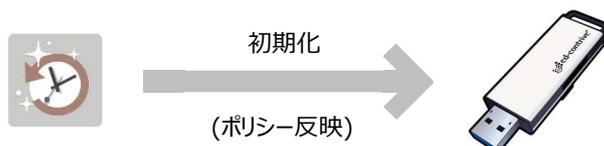
ネットワーク経由で Traventy 4 のポリシー配信を行うためのツールです。また、各 Traventy 4 毎の更新状況の履歴を管理することができます。

ポリシー配信ツールの使用方法は「**ポリシー配信ツールの操作** (P.40)」を参照してください。

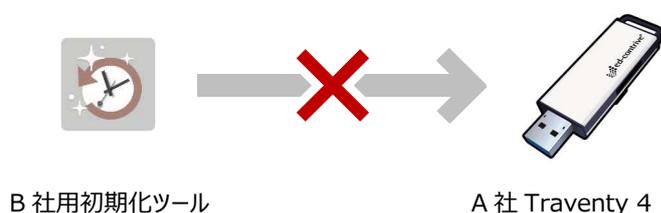
初期化ツール



Traventy 4 に対してポリシーを設定するためのツールです。インストール不要で実行可能ですので、初期化ツールを配布し、配布先で初期化を行う等の運用が可能です。



初期化時には、Traventy 4 に設定された初期化ツール ID と実行された初期化ツールの初期化ツール ID が一致しない限り、初期化を行うことができないため不正にポリシーが変更されることはありません。



通常初期化ツール

ユーザドライブ内のデータ削除、パスワードの初期化、ポリシーの更新を行います。資産管理機能を有効にしていた場合、企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号および未送信の使用履歴/ファイル操作履歴は削除されません。

簡易初期化ツール

パスワードの初期化およびポリシーの更新を行います。ユーザドライブ内のデータは削除されません。資産管理機能を有効にしていた場合、企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号および未送信の使用履歴/ファイル操作履歴は削除されません。
ロックされた Traventy 4 には使用できません。

完全初期化ツール

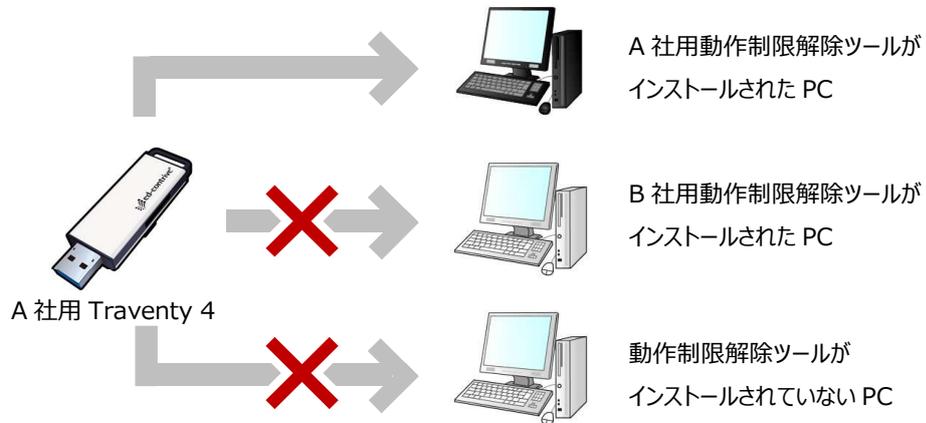
ユーザドライブ内のデータ削除、パスワードの初期化、資産管理機能を含むすべてのポリシーが更新されます。企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号、未使用の送信履歴/ファイル操作履歴もクリアされるため、再度 AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service への利用者登録および Traventy 4 による初期登録を行う必要があります。

初期化ツールの使用方法および詳細については「[初期化ツールの使用 \(P.29\)](#)」を参照してください。

動作制限解除ツール



動作制限判定条件にて動作制限解除ツールを指定した場合、Traventy 4 は動作制限解除ツールがインストールされた PC/アカウントでのみ動作制限環境外として使用できます。判定には使用する Traventy 4 と同じ初期化ツール ID を持つ動作制限解除ツールがインストールされている必要があります。

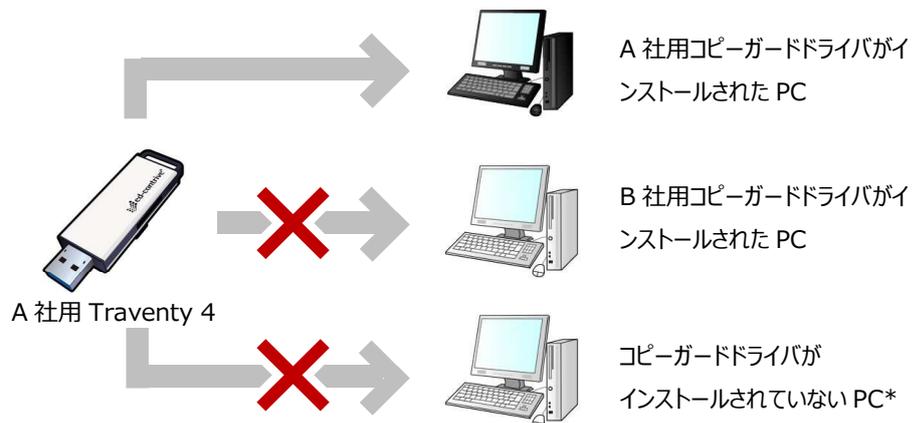


動作制限解除ツールの使用方法は「[動作制限解除ツールの使用 \(P.30\)](#)」を参照してください。

コピーガードドライバ



動作制限設定にてコピーガード機能を有効にした場合に生成されるドライバインストーラです。管理者権限を持たない動作制限環境で Traventy 4 を使用する場合や、利用環境の制限を行っている場合は、使用する Traventy 4 と同じ初期化ツール ID を持つコピーガードドライバのインストールが必要となります。



*管理者権限かつ利用環境の制限が無効の場合を除きます

コピーガードドライバの使用方法は「[コピーガードドライバの使用 \(P.32\)](#)」を参照してください。

Traventy 4 AdminPack の動作環境

OS	<p>Windows 11 (21H2/22H2/23H2) Home / Pro / Pro Education / Pro for WorkStation / Education / Enterprise (64bit)</p> <p>Windows 10 (21H2/22H2) Home / Pro / Education / Enterprise (64bit / 32bit)</p> <p>Windows Server 2022 Essentials / Standard / Datacenter (64bit)</p> <p>Windows Server 2019 Essentials / Standard / Datacenter (64bit)</p> <p>Windows Server 2016 Essentials / Standard / Datacenter (64bit)</p> <p>※いずれの OS も日本語版 / 英語版に対応</p> <p>※Windows Server OS はポリシー配信ツールのみ対応</p>
CPU	OS の最低動作要件を満たすこと
メモリ	OS の最低動作要件を満たすこと
その他	<p>ポリシー配信ツールはインストール時に管理者権限が必要です。</p> <p>ポリシー配信ツールは標準で 80/TCP を利用します。ポリシー配信ツールの使用ポートと同じポートを使用するソフトウェアを同時にご利用いただくことはできません。</p>

最新の動作環境は弊社ホームページにてご確認ください。

イーディーコンプライブ社 製品 HP

<https://www.safety-disclosure.jp/>

インストール / アンインストール

Traventy 4 AdminPack の各ツールは、ポリシー配信ツールを除いて PC のアカウント毎にインストールされます。アンインストール時には、インストールを行ったアカウントにて操作を行う必要があります。

各ツールのインストーラのファイル名は以下の通りです。

- ・ ポリシー設定ツール : PolicySettingTool.exe
- ・ レスキューツール : RescueTool.exe
- ・ ポリシー配信ツール : PolicyUpdateTool.exe

インストールする

コンピュータの CD-ROM ドライブに Traventy 4 AdminPack の CD を挿入し、各ツールのインストーラを実行します。実行後は各ツールの画面の指示に従って操作してください。

注意

- * ポリシー配信ツールのインストールには管理者権限が必要です。
- * ポリシー配信ツールが使用するポート(標準では 80/TCP)にて、通信が行えるようにパーソナルファイアウォール等の設定を行ってください。
- * ポリシー配信ツールが使用するポートと同じポートを使用するアプリケーションがインストールされている PC へ、ポリシー配信ツールをインストールすることはできません。

アンインストールする

[設定]→[アプリ]→[アプリと機能]をクリックします。
対象のツールを選択し、アンインストールを行ってください。

各ツールは下記のように表示されます。

- ・ ポリシー設定ツール : Traventy 4 PolicySettingTool
- ・ レスキューツール : Traventy 4 RescueTool
- ・ ポリシー配信ツール : Traventy 4 PolicyUpdateTool

ポリシー設定ツールの操作

ポリシー設定ツールの起動

[スタート]→[ED-CONTRIVE]→[Traventy 4_ポリシー設定ツール]を選択し、ポリシー設定ツールを起動します。

ポリシー設定ツールの画面説明



- 1 設定を行うカテゴリです。
- 2 選択されたカテゴリの具体的な設定を行います。
複数ページにわたる場合は上部のタブをクリックし切り替えます。
- 3 設定完了ボタンです。
設定完了後、このボタンをクリックし出力するファイルの設定を行います。
- 4 過去に設定したポリシーの設定ファイルを読み込みます。

パスワード設定

パスワードポリシー1

パスワードの桁数

パスワードの最小桁数を 1～16 桁の間で指定します。最大桁数は 16 桁です。(デフォルトの最小桁数は 4 桁です)

大文字・小文字の区別

パスワード認証の際にアルファベットの大文字と小文字を区別させない場合はチェックを外します。

チェックを外した場合、アルファベットは全て大文字として認識されます。

TRAVENTY.4 ポリシー設定ツール

パスワード設定

パスワードポリシー1

パスワードポリシー2

パスワードレスキュー

マスターパスワード

パスワードの桁数

4 ~16桁

大文字・小文字の区別

アルファベットの大文字と小文字を区別する

使用可能文字種

数字 アルファベット(大文字) アルファベット(大文字と小文字)

記号 アルファベット(小文字)

必須文字種

指定しない

使用可能文字種より設定種類以上 2

下記より指定された文字種

数字 アルファベット(大文字) アルファベット(大文字または小文字)

記号 アルファベット(小文字)

設定完了

設定ファイル読み込

使用可能文字種

パスワードに使用できる文字種を設定します。使用したい文字種を選択してください。

必須文字種

パスワードに必ず含めなければならない文字種を設定します。使用可能文字種で指定した文字種のみ設定できます。

パスワードポリシー-2

パスワードの有効期間

パスワードの有効期間を設定する場合はチェックを入れ、有効期間を 10～365 日の範囲で選択してください。

パスワード再利用制限

過去に使用したパスワードの再利用を防ぐ場合はチェックを入れ、再利用を禁止する履歴を選択してください。

24 時間以内のパスワード設定可能回数

パスワードを 24 時間の間に設定可能な回数を指定します。初期パスワードの設定も 1 回としてカウントされます。

認証失敗制限

パスワード認証の連続失敗時の制限設定をする場合はチェックを入れ、失敗回数および制限時の制限内容を選択します。

ロック

ユーザドライブはロックされ、レスキューツールによるパスワード強制変更まで正しいパスワードを入力しても使用できません。ユーザドライブ内のデータは削除されません。

初期化

ユーザドライブ内のデータを削除し、パスワードを初期化します。次回利用時にはパスワードの設定を行う必要があります。

初期化してロック

ユーザドライブ内のデータ削除、パスワードの初期化を行いユーザドライブをロックします。再度利用するためにはレスキューツールによるロック解除およびパスワード再設定が必要です。

メモ

- * ロックされた場合、通常または完全初期化ツールにて初期化をすることでも再度利用することが可能です。
- * 簡易初期化ツールはロックされた Travyenty 4 には使用できませんのでご注意ください。

パスワードレスキュー

パスワードレスキュー機能

パスワードを忘れた場合や、ユーザドライブがロックされた際の救済機能です。この機能を使用した場合、ポリシー作成時に指定するレスキューIDとレスキューツールを使用してロック解除・パスワード強制再設定を行うことができます。

ロック解除・パスワード強制再設定の操作については「[ロック解除・パスワード強制再設定 \(P.36\)](#)」を参照してください。



マスターパスワード

マスターパスワード設定

利用者が設定するパスワードとは別に、マスターパスワードを設定することができます。マスターパスワードが有効な場合、パスワードを忘れた際にマスターパスワードを使用してユーザドライブへアクセスすることが可能です。

同じ初期化ツールで初期化を行った Traveny 4 すべてに対してマスターパスワードが有効となりますので、マスターパスワードの設定および取り扱いにはご注意ください。



- ✕ * マスターパスワードは、4～16 桁の半角英数記号の使用が可能です。
- モ * マスターパスワードはロックされた Traveny 4 には使用できませんのでご注意ください。

Autorun.inf ファイル削除機能

本機能を有効にした場合、パスワード認証成功後に、ユーザドライブ直下に“Autorun.inf”ファイルが存在した際に自動で削除を行います。

Autorun.inf は指定のプログラムを自動実行することが可能な設定ファイルです。予期せぬ悪意を持ったプログラムの実行を防ぐ手段の1つとして有効です。



資産管理機能

資産管理機能

資産管理サーバソフトウェア AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service と組み合わせてご利用になる場合は、「資産管理機能を有効にする」にチェックを入れ、該当するソフトウェア / サービスを選択してください。

メモ

- * 本機能をご利用いただくには、別途 AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service を準備する必要があります。
- * AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service の操作、SV 機能の設定等については弊社製品 HP をご覧ください。

AssetFinder 製品ページ

<https://www.safety-disclosure.jp/products/assetfinder/>

AssetFinder Cloud 製品ページ

<https://www.safety-disclosure.jp/lp/assetfindercloud/>

AssetFinder Remote Wipe Service 製品ページ

<https://www.safety-disclosure.jp/lp/assetfinderRWS/>

注意

- * コピーガード環境またはコピーガードドライバがインストールされた PC にて Traventy 4 を使用する場合、ファイル操作履歴は取得できませんのでご注意ください。

AssetFinder / AssetFinder Cloud のアドレス指定

通信を行う AssetFinder / AssetFinder Cloud のアドレスを設定します。「送信先アドレス」に AssetFinder / AssetFinder Cloud のアドレスを入力してください。名前解決ができる環境で Traveenty 4 をご利用いただく場合は、FQDN で指定することも可能です。

メモ

- * AssetFinder を指定した場合サーバアドレスは 2 つまで設定することができます。例えば、社内から AssetFinder へ接続するためのローカルアドレス、社外から接続するためのグローバルアドレスの 2 つを指定します。
社外からの通信を許可しない場合は、社内用のローカルアドレスのみを指定します。
- * プロキシサーバが有効になっている場合、指定されている内容に従い AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service と通信を行います。

注意

- * AssetFinder Remote Wipe Service をご利用頂く場合、送信先アドレスは固定となるため変更することはできません。

データ強制削除

AssetFinder / AssetFinder Cloud でユーザの無効化(対象の USB メモリの使用を禁止)を行った場合の動作を指定します。

「ユーザ無効化時に Traveenty 4 のデータを強制削除する」をチェックした場合、無効化状態で Traveenty4.exe を実行した際にユーザドライブ内のデータ削除を行います。

注意

- * AssetFinder Remote Wipe Service をご利用頂く場合、本設定を変更することはできません。

取得情報の選択

ローカル IP アドレス、コンピュータ名、MAC アドレス、ユーザ名について、取得の有無を設定できます。チェックを外した項目は取得対象外の情報となり、AssetFinder / AssetFinder Cloud 上では "-" と表示されます。

注意

- * AssetFinder Remote Wipe Service をご利用頂く場合、本設定を変更することはできません。

オフライン時の動作

オフライン(AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service と通信できない状態)時の動作を設定します。「AssetFinder へ接続できない環境での Traveenty 4 の使用を禁止する」をチェックすると、AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service と通信ができる環境でのみ Traveenty 4 が使用できます。

棚卸し機能

棚卸し機能

棚卸し機能を有効にする場合はチェックを入れます。棚卸し期間中に AssetFinder / AssetFinder Cloud と通信を行える環境で Traveny 3 のパスワード認証が成功することで棚卸し完了となります。

期間中に一度も通信を行わなかった Traveny 4 は棚卸し未完了としてロックされ使用できません。

ロックの解除の操作については「**ロック解除・パスワード強制再設定 (P.36)**」を参照してください。



注 意

- * 棚卸し期間中に Traveny 4 を初期化した場合、その Traveny 4 で有効な棚卸し期間は次回の期間からになります。
- * AssetFinder Remote Wipe Service を選択した場合、棚卸し機能をご利用いただくことはできません。

棚卸し期間

棚卸し期間を毎年の月日で設定します。期間は最大で6つまで指定できます。ただし1つの期間で6ヶ月を超える棚卸し期間は設定できません。

棚卸し期間中に AssetFinder 非接続環境で Traveny 4 を起動したときのメッセージ

棚卸し期間中に AssetFinder / AssetFinder Cloud と通信できない環境で棚卸しが完了していない Traveny 4 を使用した場合、メッセージを表示し棚卸し作業を行うよう警告することができます。

ポリシー配信機能

ポリシー配信機能

ネットワーク経由で Traventy 4 のポリシー配信を行う場合有効にします。この機能を有効にした場合、Traventy 4 利用時にポリシー配信ツールがインストールされた PC に対して、ポリシーの更新有無のチェックを行います。

ポリシー配信ツールのアドレス/ポート指定

ポリシー配信ツールがインストールされている PC の IP アドレスおよびポートを入力します。Traventy 4 はここで指定した IP アドレス/ポートに対して、ポリシーの更新有無のチェックを行います。

ポリシー配信ツールの使用方法は「**ポリシー配信ツールの操作** (P.40)」を参照してください。



注意

- * AssetFinder が使用するアドレスとポート(80/tcp or 443/tcp)の組み合わせは指定することができません。
- * コピーガード環境にて Traventy 4 を使用する場合、ネットワークの有効無効に関わらずポリシー配信機能は利用できません。

使用可能期間

使用可能期間設定

Traventy 4 の使用可能期間を設定することができます。使用可能期間は、初回パスワード認証成功時から数えて 1～365 日の間で設定可能です。

使用可能期間の延長はレスキューツールを使用します。レスキューツールの使用方法は「**使用可能期間の延長** (P.38)」を参照してください。



メモ

- * 使用可能期間が残っている状態で期間延長を行った場合、残期間 + 延長された期間が使用可能期間となります。
- * 使用可能期間を超過した状態で期間延長を行った場合、延長後の初回パスワード認証成功時から延長期間分が使用可能期間となります。

動作制限

動作制限の設定

Traventy 4 を使用する PC によって動作制限を行うことができます。設定を有効にした場合、動作制限を選択してください。

判定条件

Traventy 4 が制限なく利用できる条件を指定します。

<動作制限解除ツール>

初期化ツールと同時に生成される動作制限解除ツールがインストールされている PC を、動作制限環境外と判定します。動作制限解除ツールは、アカウント毎のインストールが必要です。動作制限解除ツールの使用方法は「[動作制限解除ツールの使用 \(P.30\)](#)」を参照してください。

<組み合わせ>

下記の条件で動作制限環境対象か判定します。複数の条件を選択した場合は、And 条件となりすべての条件を満たした時のみ、制限環境外と判定されます。

IP アドレス

利用する PC の IP アドレスが指定 IP アドレスと一致するか判定します。

MAC アドレス

利用する PC の MAC アドレスが指定 MAC アドレスと一致するか判定します。

PC 内の特定ファイル / フォルダ

利用 PC 内に指定されたファイル / フォルダが存在するか判定します。

PC の所属するワークグループ / ドメイン

利用する PC が参加しているワークグループ名、またはドメイン名が指定したワークグループ名 / ドメイン名と一致するか判定します。

メモ

- * 動作制限にて[制限環境でコピーガード機能を有効にする]を選択した場合、判定結果に関わらずポリシー設定ツールがインストールされた環境は制限環境外として動作します。

注意

- * コピーガード環境にて Traventy 4 を使用する場合、ファイル操作履歴は取得できませんのでご注意ください。
- * 動作制限にて[制限環境でコピーガード機能を有効にする]を選択した場合、判定結果に関わらず Mac OS ではご利用いただけません。

PC情報の組み合わせにて判定を行う場合、以下のフォーマットでCSVファイルを作成し設定してください。

<IPアドレス>

- ・ 設定可能な最大行数は 128 行です。
- ・ 1 列 n 行で設定してください。
- ・ IPv4 で指定してください。IPv6 には対応していません。

(例 1)絶対指定の例

```
192.168.1.3
```

(例 2)範囲指定の例

```
192.168.1.3-192.168.1.255
```

(例 3)サブネットマスクを使用した指定の例

```
192.168.90.0/24
```

(例 4)組み合わせた例

```
192.168.1.3  
192.168.25.1-192.168.25.130  
192.168.30.0/24
```

<MACアドレス>

- ・ 設定可能な最大行数は 5,000 行です。
- ・ 1 列 n 行で設定してください。
- ・ オクテット間は“- (ハイフン)”または“: (コロン)”で区切ってください。

(例)

```
00-24-1D-BE-0F-B4  
00-0B-97-A1-74-A7  
04:A3:43:5F:43:23
```

<PC 内の特定ファイル / フォルダ>

- ・ 設定可能な最大行数は 128 行です。
- ・ n 列 m 行で設定できます。
- ・ 複数列を指定した場合、該当行の列の値は And 条件となります。
- ・ 列の区切りは“, (カンマ)”を指定します。

(例 1) 単一のファイル / フォルダを条件とした例

```
C:¥Windows¥Check.txt
```

(例 2) 複数のファイル / フォルダを条件とした例

```
C:¥tmp¥Traventy_3.tmp,C:¥Program Files¥ED-CONTRIVE¥
```

(3) 組み合わせた例

```
C:¥autoexec_org.bat  
C:¥work¥DailyLog¥,D:¥temp¥SGS.cab
```

<PC の所属するワークグループ / ドメイン>

- ・ 設定可能な最大行数は 128 行です。
- ・ 1 列 n 行で設定してください。

(例)

```
WORKGROUP2  
HeadOffice.local
```

コピーガード

アクセス許可プロセス

コピーガード環境にて Traveny 4 を使用した際に、ユーザドライブにアクセスできるプロセスを指定できます。

保存されたファイルはここで指定したプロセスのみアクセスできるため、意図しないソフトウェアによるデータアクセスを防ぐことができます。

[パスワード認証時に、自動で許可プロセスを追加する]を選択した場合、パスワード認証後ユーザドライブ直下のファイルに関連付けられたプログラム(プロセス)が許可プロセスとして追加されます。

デフォルトでは以下のプロセスがアクセス許可プロセスとして登録されています。

winword.exe	excel.exe	powerpnt.exe
notepad.exe	acrdord32.exe	acrobat.exe



メモ

* デフォルトで許可されているプロセスにおいて、一部情報漏洩の可能性がある機能については制限されています。

注意

* 追加したプロセス及び自動許可されたプロセスについては動作保証対象外となります。

コピーガードオプション

コピーガード環境にて Traveny 4 を使用する際のオプションを設定します。
ネットワークアクセスおよび印刷を禁止しない場合、情報漏洩のリスクが高くなります。

利用環境の制限

管理者権限を持つアカウントの場合、コピーガードドライバをインストールせずに Traveny 4 を使用することが可能ですが、本設定を有効にすることでコピーガードドライバのインストールが必須となります。利用環境を制限したい場合は本設定を有効にしてください。

注意

* SV 機能が有効な Traveny 4 を使用した直後にコピーガード環境として動作する Traveny 4 はご利用いただけません。一度 PC の再起動を行いご利用ください。

* ポリシー設定ツール、判定条件結果、コピーガードドライバの組み合わせにおけるコピーガード機能の有効/無効は以下の通りとなります。

ポリシー設定ツール	判定条件	コピーガードドライバ	コピーガード
インストール有	一致	インストール有	無効
インストール有	一致	インストール無	無効
インストール有	不一致	インストール有	無効
インストール有	不一致	インストール無	無効
インストール無	一致	インストール有	無効
インストール無	一致	インストール無	無効
インストール無	不一致	インストール有	有効
インストール無	不一致	インストール無	有効*

(*)管理者権限を持つアカウントのみで使用可能です。ただし[利用環境の制限]が有効な場合は、権限に関わらず使用できません。

メッセージ

起動メッセージの設定

Traventy 4 起動時のメッセージ表示有無を設定できます。

設定を有効にした場合、[編集]ボタンより表示するメッセージを設定します。また、「ユーザが非表示設定にすることを許可する」をチェックした場合、ユーザが起動メッセージの表示/非表示を選択することが可能になります。

[テスト]ボタンをクリックすると、設定したメッセージがどのように表示されるのかを確認することができます。



エラーメッセージの編集

Traventy 4 使用中に表示される各種エラーメッセージを[編集]ボタンより設定できます。

[テスト]ボタンをクリックすると、設定したエラーメッセージがどのように表示されるのかを確認することができます。

メッセージはそれぞれ日本語 OS 用、英語 OS 用の 2 種類が設定可能です。

メッセージを編集しない場合はデフォルトのエラーメッセージを使用します。

ドライブ設定

ユーザドライブのサイズ指定

ユーザドライブのサイズを指定することができます。利用者で使用できる容量を一定量以下に指定したい場合にご利用ください。Traventy 4 の容量以上に設定した場合は初期化が行えません。

ボリュームラベルの指定

ボリュームラベルを変更することができます。変更しない場合は、以下のデフォルトボリュームラベル名が設定されます。

管理用ドライブ : `MANAGE_DRV`
ユーザドライブ : `USER_DRV`



メモ

* ボリュームラベルは「*」「?」「[」」「:]」「<」「>」「|」「+」「=」「,」「/」「¥」「”」を除く 11 文字以内の大文字半角英数記号が使用できます。

ユーザドライブのファイルシステム

ユーザドライブのファイルシステムを FAT / NTFS から選択することができます。デフォルトは FAT です。

メモ

* Mac OS 用認証プログラムを追加する場合は FAT のみ選択可能です。

追加ファイル

追加ファイルの指定

あらかじめ任意のファイルを Traveny 4 へ追加することができます。対象のドライブをチェックした後、追加したいファイルをドラッグ & ドロップしてください。

管理用ドライブにファイルを追加した場合、利用者でのファイル削除や更新は行えません。また、追加するファイルのサイズによって、生成される初期化ツールのサイズも増加します。



Mac OS 用認証プログラムを管理ドライブへ追加することができます。

Mac OS 用認証プログラムを追加することで、Mac OS にて Traveny 4 を使用することができます。ただしユーザドライブのファイルシステムを NTFS に指定した場合、または動作制限の設定にてコピーガード機能を指定した場合は選択できません。

動作制限の設定にてコピーガードを指定した場合は、コピーガードドライバのインストーラやコピーガードドライバのインストールマニュアルを管理用ドライブへ追加することができます。

注意

- * パスワード連続失敗時など初期化ツール以外によるユーザドライブのデータ削除を行った場合、ユーザドライブへ追加されたファイルも削除されますのでご注意ください。

出力設定

ポリシーの設定完了後は[設定完了]ボタンをクリックし、出力するファイルの設定を行います。

初期化ツールの設定

初期化ツール ID は不正なポリシー変更防止等の情報として、ポリシー設定ツールより出力される各ファイルに対して設定されます。

初期化を行うと、Traventy 4 には実行された初期化ツールの ID が設定されます。異なる ID が設定されている Traventy 4 を初期化する場合は、Traventy 4 に設定されている初期化ツール ID の入力が必要です。また動作制限解除ツール、コピーガードドライバは、ツールに設定されている ID と同じ初期化ツール ID が設定されている Traventy 4 に対してのみ有効となります。

識別情報は作成したポリシーを判別するための情報として利用します。ポリシー配信機能をご利用の場合、Traventy 4 に設定されている識別情報と配信されているポリシーの識別情報が異なるときに、更新処理が実行されます。

注意

- * 設定した初期化ツール ID の復元はできません。初期化ツール ID を紛失した場合、初期化が行えなくなりポリシーの変更を行うことができません。初期化ツール ID の取扱いには十分注意し、お客様自身で管理してください。

メモ

- * 初期化ツール ID / レスキューID は、4～16 桁の半角英数字が使用できます。
- * 識別情報は「"」「<」「>」「|」「:」「*」「¥」「/」「?」「.」を除く半角英数記号が使用できます。
- * Traventy 4 に設定されている識別情報は、Traventy 4 使用時にタスクトレイのアイコンをクリックすることで確認できます。

レスキューID の設定

「パスワードレスキュー機能」や「使用可能期間設定」を有効にしていた場合、レスキューID を設定する必要があります。

レスキューID はレスキューツールにて使用します。レスキューツールの使用方法は「**ロック解除・パスワード強制再設定** (P.36)」「**使用可能期間の延長** (P.38)」を参照してください。

注 意

- * 設定したレスキューID の復元はできません。レスキューID を紛失した場合、レスキューツールを利用することができません。
レスキューID の取扱いには十分注意し、お客様自身で管理してください。

出力ファイルの指定

保存するファイルをチェックして[確認して出力]ボタンをクリックします。
設定したポリシーで使用しないファイルは選択できません。

設定ファイル

設定したポリシー情報を保持したファイルです。[設定ファイル読込]ボタンより設定ファイルを読み込むことができます。

通常初期化ツール

ユーザドライブ内のデータ削除、パスワードの初期化、ポリシーの更新を行います。資産管理機能を有効にしていた場合、企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号および未送信の使用履歴/ファイル操作履歴は削除されません。

簡易初期化ツール

パスワードの初期化およびポリシーの更新を行います。ユーザドライブ内のデータは削除されません。資産管理機能を有効にしていた場合、企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号および未送信の使用履歴/ファイル操作履歴は削除されません。
ロックされた Traveenty 4 に使用することはできません。

完全初期化ツール

ユーザドライブ内のデータ削除、パスワードの初期化、資産管理機能を含むすべてのポリシーが更新されます。企業 ID、USB 個別 ID、USB シリアル番号、未使用の送信履歴/ファイル操作履歴もクリアされるため、再度 AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service への利用者登録および Traveenty 4 による初期登録を行う必要があります。

動作制限解除ツール

動作制限判定条件にて動作制限解除ツールを指定した場合、このツールがインストールされた PC/アカウントでのみ動作制限環境外として Traveenty 4 を使用できます。
判定には使用する Traveenty 4 と同じ初期化ツール ID を持つ動作制限解除ツールがインストールされている必要があります。

コピーガードドライバ

コピーガード環境で Traveenty 4 を使用するために必要なドライバのインストーラです。利用環境の制限を無効にした場合は、管理者権限を持つアカウントに限り、ドライバのインストールを行わず使用することが可能です。

設定内容詳細

[確認して出力]ボタンをクリックすると、設定した内容が一覧で表示されます。

設定内容に問題がなければ[出力]ボタンをクリックします。ファイルの出力先を選択して[OK]をクリックしてください。指定した場所に識別情報を名前としたフォルダと、そのフォルダ内にファイルが出力されます。



* 初期化ツール ID、レスキューID、マスターパスワードの情報は設定内容確認画面には表示されません。

各出力ファイルのファイル名は以下の通りです。

- ・ 通常初期化ツール : InitTool.exe
- ・ 簡易初期化ツール : SimpleInitTool.exe
- ・ 完全初期化ツール : FullInitTool.exe
- ・ 設定ファイル : Settings.trv4
- ・ 動作制限解除ツール : LimitCanceller.exe
- ・ コピーガードドライバ : CGDriver.exe

初期化ツールの使用

ポリシー設定ツールで作成した初期化ツールにて Travynty 4 を初期化し、カスタマイズポリシーを適用します。

注意

- * 「通常初期化ツール」および「完全初期化ツール」にて初期化を行った場合、ユーザドライブ内のデータはすべて削除されます。初期化前にユーザドライブ内に必要なデータが残っていないかご確認の上、初期化を行ってください。
- * 初期化ツールとは異なる初期化ツール ID を持つ Travynty 4 に対して初期化を行う場合、初期化時に Travynty 4 に設定されている初期化ツール ID の入力が必要です。

メモ

- * Travynty 4 を AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service へ再登録したい場合は、「完全初期化ツール」にて初期化を行います。完全初期化ツールによる初期化後は、AssetFinder / AssetFinder Cloud / AssetFinder Remote Wipe Service への利用者登録および Travynty 4 による初期登録を行い利用します。

1. 初期化を行う Travynty 4 を USB ポートに接続します。

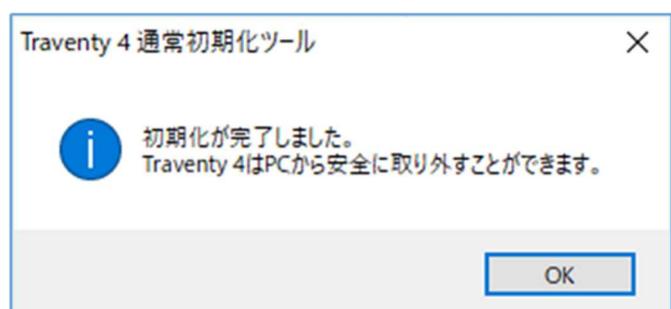
2.  初期化ツールをダブルクリックし実行します。

3. [OK]ボタンをクリックし初期化を開始します。



4. 初期化が開始されます。初期化中、リムーバブルディスク関連のウィンドウが表示されることがありますが、初期化が完了するまで Travynty 4 への操作は行わないようにしてください。

5. 完了画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。



動作制限解除ツールの使用

ポリシー設定ツールで作成した動作制限解除ツールをインストールすることで、対象 PC を動作制限環境外とすることができます。

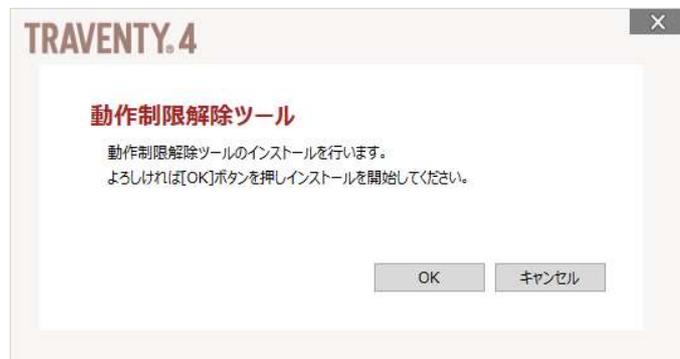
インストールする

注意

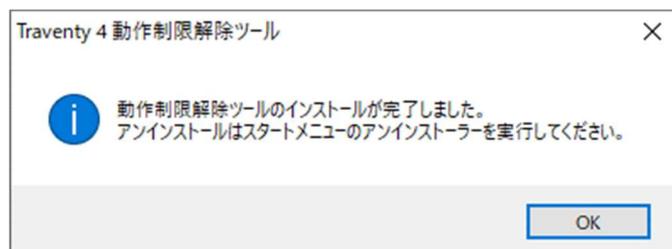
- * 「動作制限解除ツール」は制限解除を行う PC のアカウント毎にインストールを行う必要があります。
- * 「動作制限解除ツール」は同一の初期化ツール ID を持つ Traveenty 4 に対して動作制限の解除を行います。対象 PC には使用する Traveenty 4 と同じ初期化ツール ID を持つ動作制限解除ツールをインストールしてください。
- * 1 つの PC、アカウントにて、初期化ツール ID の異なる複数の動作制限解除ツールをインストールすることが可能です。

1.  動作制限解除ツールをダブルクリックし実行します。

2. [OK]ボタンをクリックしインストールを開始します。



3. 完了画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。



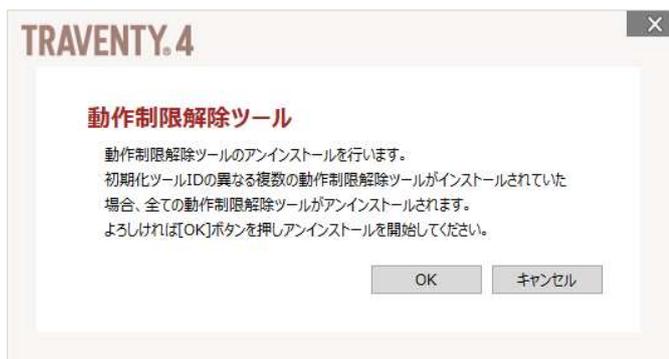
アンインストールする

注意

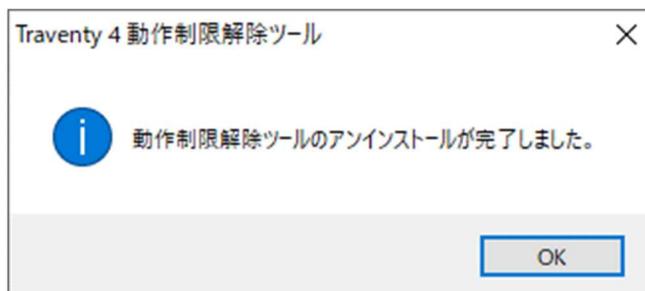
- * アカウント毎にアンインストールが必要です。
- * アンインストールを行うと、インストールされているすべての動作制限解除ツールをアンインストールします。初期化ツール ID の異なる動作制限解除ツールを個別にアンインストールすることはできません。

1. [スタート]→[ED-CONTRIVE]→[Traventy 4_アンインストール]  を選択します。

2. [OK]ボタンをクリックしアンインストールを開始します。



3. 完了画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。



コピーガードドライバの使用

ポリシー設定ツールから生成されたコピーガードドライバをインストールすることで、コピーガード環境で Traventy 4 が使用可能となります。

インストールする

注意

- * 「コピーガードドライバ」は同一の初期化ツール ID を持つ Traventy 4 に対してコピーガード機能を有効にします。
- * 「コピーガードドライバ」のインストール には管理者権限が必要です。
- * ドライバインストール後は必ず再起動を行ってください。再起動を行わない場合、予期せぬ動作が発生することがあります。

1.  [CGDriver.exe]を実行します。

2. コピーガードドライバインストーラが起動するので、[次へ (N)]ボタンをクリックします。



3. インストール先を指定し、[次へ (N)]ボタンをクリックします。



4. インストールが完了すると再起動を求められるので、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択し[完了]ボタンをクリックします。



5. 再起動が完了するとコピーガードドライバのインストール作業は完了です。

アンインストールする

注意

* ドライバアンインストール後は必ず再起動を行ってください。再起動を行わない場合、予期せぬ動作が発生することがあります。

1. スタートボタンを右クリックし[設定]を選択します。

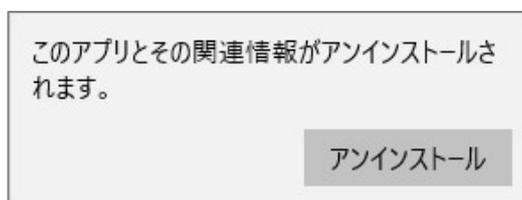
2. [アプリ]をクリックします。



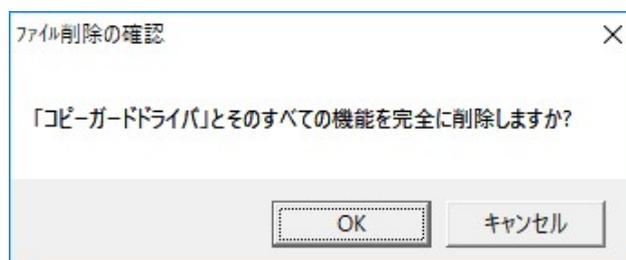
3. [コピーガードドライバ]を選択し[アンインストール]をクリックします。



4. 再度[アンインストール]をクリックします。



5. 確認画面が表示されるので[OK]ボタンをクリックします。



6. アンインストールが完了すると再起動を求められるので、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択し[完了]ボタンをクリックします。



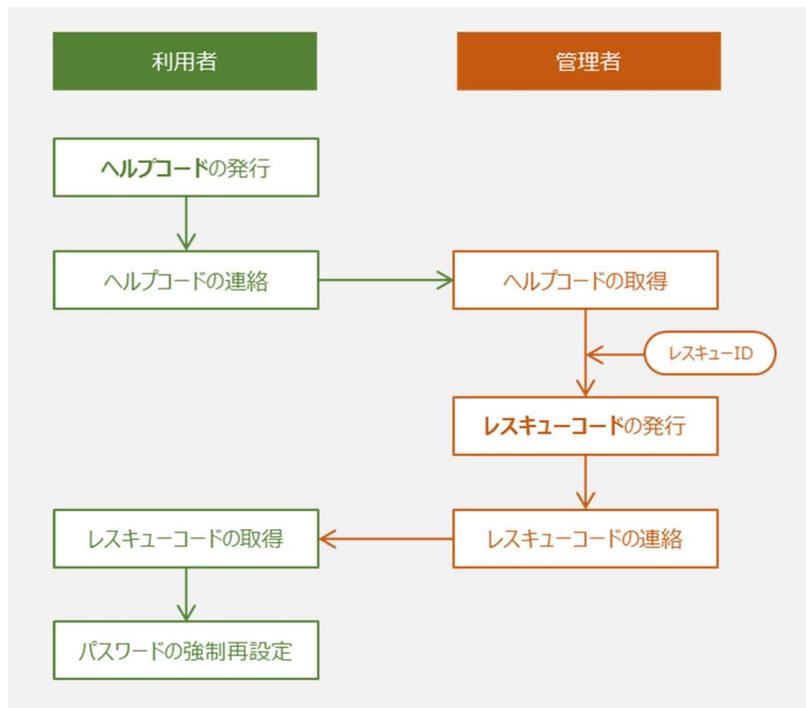
7. 再起動が完了するとコピーガードドライバのアンインストール作業は完了です。

ロック解除・パスワード強制再設定

パスワード忘れ、パスワード連続失敗等によるロックされた Traveny 4 に対して、ロック解除・パスワードの強制再設定を行うことができます。

<ロック解除・パスワード強制再設定までの流れ>

ロック解除・パスワード強制再設定にはレスキューツールを使用します。管理者は、利用者から連絡のあったヘルプコードよりレスキューコードを生成します。利用者はこのレスキューコードを入力し、ロック解除・パスワード強制再設定を行います。



注意

* レスキューID を紛失した場合、レスキューツールを利用することができません。レスキューID の取扱いには十分注意し、お客様自身で管理してください。

ロック解除・パスワード強制再設定手順

管理者 と表示されている項目は管理者にて行う作業です。

利用者 と表示されている項目は利用者にて行う作業です。

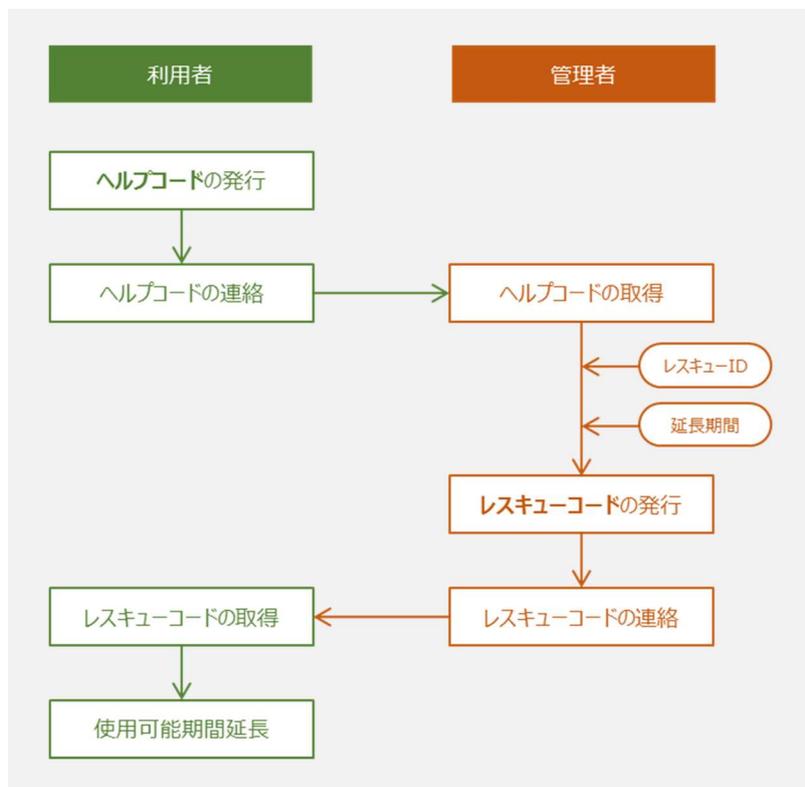
1. **利用者** Traveny 4 を起動し、[レスキュー]タブを選択します。
2. **利用者** 「ロック解除用ヘルプコード」が表示されますので、このコードを管理者へ連絡します。
3. **管理者** [スタート]→[ED-CONTRIVE]→[Traveny4_レスキューツール]を選択し、レスキューツールを起動します。
4. **管理者** レスキューID と利用者より連絡があったヘルプコードを入力し、[レスキューコード作成]ボタンをクリックします。
5. **管理者** レスキューコードが発行されるので、このコードを利用者へ連絡します。
6. **利用者** レスキュー画面にて、管理者より連絡があったレスキューコードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
7. **利用者** 正しいレスキューコードが入力された場合、パスワードの再設定画面が表示されますので、新しいパスワードを設定します。

使用可能期間の延長

レスキューツールを利用して、使用可能期間の延長を行うことができます。

<使用可能期間延長までの流れ>

使用可能期間延長にはレスキューツールを使用します。管理者は、利用者から連絡のあったヘルプコードよりレスキューコードを生成します。利用者はこのレスキューコードを入力し、使用可能期間を延長します。



注意

- * レスキューIDを紛失した場合、レスキューツールを利用できません。レスキューIDの取扱いには十分注意し、お客様自身で管理してください。

メモ

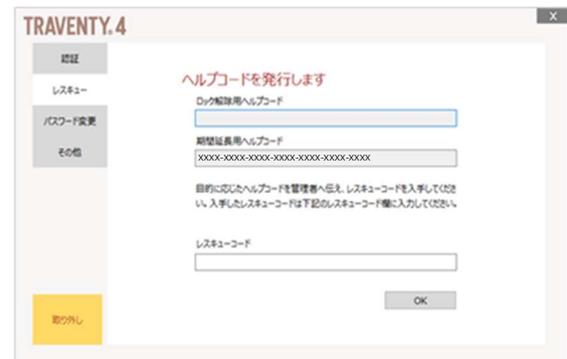
- * 使用可能期間が残っている状態で期間延長を行った場合、残期間 + 延長された期間が使用可能期間となります。
- * 使用可能期間を超過した状態で期間延長を行った場合、延長後の初回パスワード認証成功時から延長された期間が使用可能期間となります。

使用可能期間延長手順

管理者 と表示されている項目は管理者にて行う作業です。

利用者 と表示されている項目は利用者にて行う作業です。

1. **利用者** Traveny 4 を起動し、[レスキュー]タブを選択します。
2. **利用者** 「期間延長用ヘルプコード」が表示されますので、このコードを管理者へ連絡します。
3. **管理者** [スタート]→[ED-CONTRIVE]→[Traveny 4_レスキューツール]を選択し、レスキューツールを起動します。
4. **管理者** レスキューID と利用者より連絡があったヘルプコードおよび延長する期間を入力し、[レスキューコード作成]ボタンをクリックします。
5. **管理者** レスキューコードが発行されるので、このコードを利用者へ連絡します。
6. **利用者** レスキュー画面にて、管理者より連絡があったレスキューコードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
7. **利用者** 正しいレスキューコードが入力された場合、期間が延長された状態で Traveny 4 が利用できます。



ポリシー配信ツールの操作

あらかじめポリシー配信ツールにポリシーを設定しておくことで、Traventy 4 利用時にネットワーク経由でポリシーを配信することができます。

ポリシー配信ツールの起動

[スタート]→[ED-CONTRIVE]→[Traventy 4_ポリシー配信ツール]を選択し、ポリシー配信ツールを起動します。

ポリシー配信ツールの画面説明

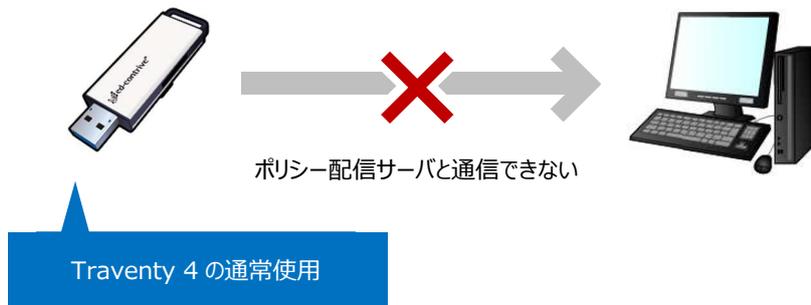


- 1 設定を行うカテゴリです。
- 2 選択されたカテゴリの情報表示や具体的な設定を行います。

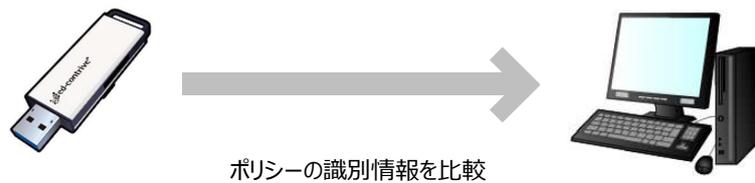
ポリシー配信の仕組み

ポリシー配信機能が有効な Traveenty 4 はパスワード認証に成功すると、ポリシー配信ツールをインストールした PC(以下ポリシー配信サーバといいます)に対して、ポリシーの更新がないか確認を行います。

ポリシー配信サーバへ接続できない場合は、通常のパスワード認証成功後と同様にユーザドライブへのアクセスが可能となります。



ポリシー配信サーバと接続できる場合、ポリシー配信サーバで配信されているポリシーの識別情報と、Traveenty 4 の識別情報を比較します。

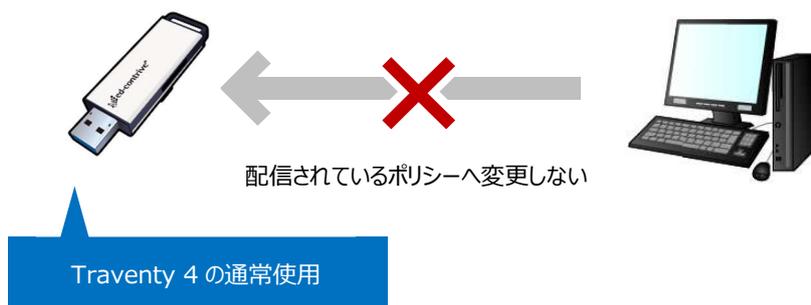


識別情報が一致していた場合は新しいポリシーが配信されていないと判断し、通常のパスワード認証後と同様にユーザドライブへのアクセスが可能となります。



識別情報が一致しない場合は新しいポリシーが配信されていると判断します。この時ポリシー配信ツールにて強制初期化が無効の場合は、ポリシーの変更を行うか確認メッセージが利用者に表示されます。

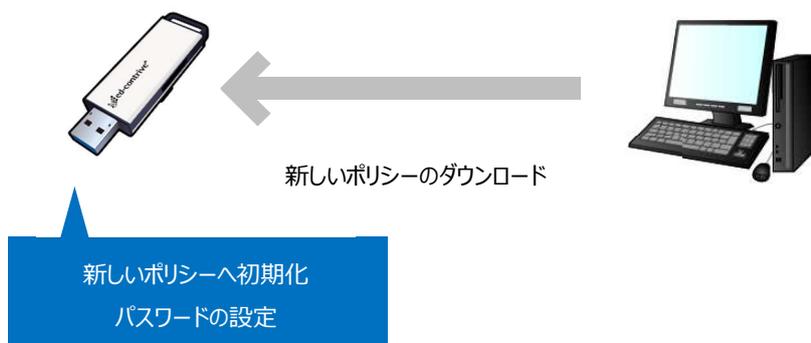
ポリシーの変更を行わない場合は、通常のパスワード認証後と同様にユーザドライブへのアクセスが可能となります。



メモ

- * 新しいポリシーに変更しなかった場合でも、ポリシー配信サーバでポリシーが配信されている限り次回 Traventy 4 使用時にポリシーの変更確認が表示されます。

新しいポリシーへ変更する場合、または強制初期化が有効な場合は、ポリシー配信サーバから初期化ツールをダウンロードし Traventy 4 を初期化します。初期化後は新たにパスワードの設定を行う必要があります。



注意

- * 「通常初期化ツール」および「完全初期化ツール」にてポリシー更新を行った場合、ユーザドライブ内のデータはすべて削除されます。
- * 初期化ツールと異なる初期化ツール ID を持つ Traventy 4 に対してポリシー更新を行う場合、更新時に Traventy 4 に設定されている初期化ツール ID の入力が必要です。

更新履歴

ポリシー配信ツール経由で更新された Traveny 4 の更新履歴が一覧で表示されます。

表示の更新

更新履歴の表示を最新状態に更新します。

更新履歴の消去

保存されている更新履歴が消去されます。消去された更新履歴は復元できませんので、必要に応じて CSV ファイルに保存してください。

CSV ファイルとして保存

現在の更新履歴を CSV ファイルとして保存します。



配信設定

配信するポリシー(初期化ツール)の選択、強制初期化の有無を設定します。

配信ポリシーの選択

配信するポリシー(初期化ツール)を選択します。初期化ツールは、通常初期化ツール、簡易初期化ツール、完全初期化ツールにかかわらず配信することができます。

強制初期化

利用者に確認メッセージを表示せず、強制的に初期化を行う場合チェックを入れます。

選択されたポリシー

選択した初期化ツールに設定されているポリシーが一覧で表示されます。



注意

- * 強制初期化を有効にすると利用者の同意なく初期化が行われるため、「通常初期化ツール」「完全初期化ツール」を配信ポリシーとして選択した場合、意図せず保存されたデータが消去される場合があります。
データを消去せずにポリシー更新を行う場合は「簡易初期化ツール」をご使用ください。

現在の設定

現在配信設定されているポリシーを確認します。

配信設定のクリア

現在設定されている配信設定を取り消します。



メモ

* 初期化ツール ID、レスキューID、マスターパスワードの情報は配信ポリシー内容には表示されません。

配信ツール設定

ポリシー配信ツールの設定を行います。

同時最大セッション数

ポリシー配信ツールに同時接続できる Traveny 4 の本数を設定します。これを超過した Traveny 4 はポリシー配信ツールへ接続できないため、次回接続時までポリシー更新を行えません。

使用ポート

ポリシー配信ツールが使用するポートを変更することができます。



ユーザ登録・サポート

製品に関するユーザサポート、よくあるご質問、ソフトウェアの修正版等は下記 Web ページにてご案内しております。ユーザ登録の上ご利用ください。

ユーザ登録ページ

<https://www.safety-disclosure.jp/support/>

ユーザ登録済みのお客様には、本ソフトウェアに関する情報などをメールにてご連絡いたします。

